

ディベート学習始まる！

高校1年生のCTPの授業で、日本語でのディベート学習が始まりました。CTP(高1)は、1年間の前半はクリティカル・シンキング(批判的思考力や論理的思考力:CT)の基礎編として、①すべての活動の基盤となるCTの習得、②各教科内容に関するCTを活用した課題学習、に取り組んできました、後半は応用編として、③CTを最大限に活用したディベート学習を行います。

このディベートは、ある論題について「肯定チーム(4名)」と「否定チーム(4名)」に分かれ、試合形式で勝敗を競います。以下の5つの論題で、1つにつき2チームが対戦するので、5回の対戦でクラス全員(2チーム×5回=40名)が必ず選手として対戦します。3学期には英語ディベートにも取り組みます。

☆ディベートで高める力

- この学習を通して、「調べる力」、「筋道を立てて考える力(論理的思考力や批判的思考力)」、「分かりやすく話す力」、「相手の話を聴く力」、「証拠を検証する力」を高めます。
- もちろん「チームワーク」も重要です。これらは、課題研究にも必要となる力です。

- 論題：①「小学校での英語教育の教科化は必要か」(10/13)
 ②「毎週土曜日に授業を行うべきか」(10/27授業公開)
 ③「内閣総理大臣は国民が直接選ぶべきだ」(11/10)
 ④「遺伝子組換え食品は禁止すべきだ」(11/17)
 ⑤「沖縄から基地をなくすべきだ」(11/24)



◇上達のポイントは、フローシートの記入！

- ディベートを行うためには、試合中に出てくる議論をきちんと記録する必要があります。そこで、選手やジャッジ、オーディエンス(残りの生徒)はフローシートに議論を記録していきます。フローシートを上手く使うことが、ディベートを上達させるポイントです。



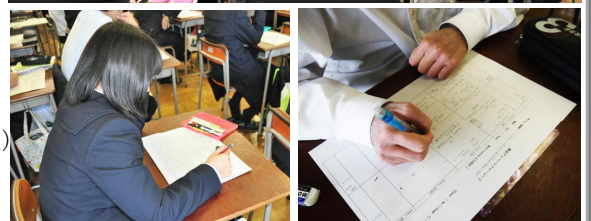
- どの生徒も議論を綿密に記録していました。文章を書くことを恐れず、筆まめになった点は、SGHが始まって生徒たちが大きく変容した点です。

生徒のフローシートの例→

Motion (論題): 小学校での英語教育の教科化は必要か? Class No. Name		Class No. Name	
建設的 (Affirmative)	攻撃 (Attack)	防御 (Defense)	審判 (Judge)
<p>1. 教科の負担 (1) 教科の負担は、学習のモチベーションを下げ、成績を低下させる可能性がある。</p> <p>2. 他教科の時間を削る (2) 英語の授業は、他の教科の時間を削る必要がある。</p> <p>3. 英語の時間 (3) 英語の授業は、他の教科の時間を削る必要がある。</p> <p>4. 英語の時間 (4) 英語の授業は、他の教科の時間を削る必要がある。</p>	<p>1. 教科の負担 (1) 教科の負担は、学習のモチベーションを下げ、成績を低下させる可能性がある。</p> <p>2. 他教科の時間を削る (2) 英語の授業は、他の教科の時間を削る必要がある。</p> <p>3. 英語の時間 (3) 英語の授業は、他の教科の時間を削る必要がある。</p> <p>4. 英語の時間 (4) 英語の授業は、他の教科の時間を削る必要がある。</p>	<p>1. 教科の負担 (1) 教科の負担は、学習のモチベーションを下げ、成績を低下させる可能性がある。</p> <p>2. 他教科の時間を削る (2) 英語の授業は、他の教科の時間を削る必要がある。</p> <p>3. 英語の時間 (3) 英語の授業は、他の教科の時間を削る必要がある。</p> <p>4. 英語の時間 (4) 英語の授業は、他の教科の時間を削る必要がある。</p>	<p>1. 教科の負担 (1) 教科の負担は、学習のモチベーションを下げ、成績を低下させる可能性がある。</p> <p>2. 他教科の時間を削る (2) 英語の授業は、他の教科の時間を削る必要がある。</p> <p>3. 英語の時間 (3) 英語の授業は、他の教科の時間を削る必要がある。</p> <p>4. 英語の時間 (4) 英語の授業は、他の教科の時間を削る必要がある。</p>

♡生徒の感想

- 多方面から物事を考えることの重要性を知ることができた。もっと難しい内容にも挑戦してみたい。(1-2 渡邊)
- 実際にやってみて、自分の意見を主張することの難しさを学んだ。終わった後の達成感が忘れられない。(1-3 青木)
- 調べたデータを上手く活用する事が難しかった。ただ、データを取ってくれば良いという訳ではないことが分かった。(1-3 小松原)
- 自分の意見を相手に伝えることの難しさを感じた。そのためには、もう少しデータを集めた方が良かった。(1-4 奥)
- 選手がデータの信憑性を質問するのを見て、クリティカルシンキングが役立つことを実感した。多くの視点から考える力をつけたい。(1-1 藤生)
- 質疑で相手の論の弱点を突けば、反駁と同じくらい効果があると感じた。自分の番になったら質疑を活用したい。(1-1 高森)



- 論題;①「小学校での英語教育の教科化は必要か」(10/13),
②「毎週土曜日に授業を行うべきか」(10/27)
③「内閣総理大臣は国民が直接選ぶべきだ」(11/10),
④「遺伝子組換え食品は禁止すべきだ」(11/17)

Data-based thinking の重要性

•論題①では、「英語をこなせる人は日本人の1.3%に過ぎないという文科省の調査結果があります」(立論の根拠)、「根拠となるデータは出せますか」(反駁)などと、生徒たちは証拠資料を書籍やインターネットを使って事前に集めることや、データの不備を反駁の材料に使うということがよく実践できていました。このディベートは「クリティカル・シンキング」の授業の一環ですが、「論理的思考」は勿論、この「事実に基づく思考」の資質も身に付けていてもらいたいと願っています。